

1 D- (抗 Rh17 保有) 患者に解凍赤血球
2 を使用し輸血を行なった 1 症例

3
4 ○神谷勇太 岩崎明美 山口剛 小笠原孝子(国保君津
5 中央病院)

6
7 【はじめに】D- は Rh 式血液型の C, c, E, e を
8 欠損しており約 20 万人に 1 人いるとされている稀な
9 血液型である。通常の血液型検査においては D 抗原
10 しか検査されない為に単なる Rh 陽性として扱われ
11 る場合が多い。輸血や妊娠により高頻度抗原である
12 Rh17 (または Hro) に対する免疫抗体を産生しやす
13 く、交差適合試験や不規則性抗体検査において血清
14 中に抗 Rh17 が検出されて D- とわかる事が多い。
15 今回当院において D- (抗 Rh17 保有) 患者に解凍
16 赤血球を使用し輸血を行なった 1 症例を経験したの
17 で報告する。

18 【症例】64 歳女性, 本人申告では妊娠歴・輸血歴無し,
19 交通外傷により貧血傾向 (ヘモグロビン濃度 7.5g/dL)、
20 大腿骨骨折のため当院にて輸血を要す人工骨頭置換
21 術を予定し、術前検査にて不規則性抗体陽性となり、
22 患者血球抗原検査において D- が判明し血液セン
23 ターに同定検査依頼。血清中に抗 Rh17 を認めると報
24 告された。

25 【経過】貧血のため自己血採取出来ず、血液センタ
26 ーに D- の製剤を発注。国内に赤血球濃厚液 LR
27 が無く、手術が急を要するため稀血者の献血要請が出
28 来ず解凍赤血球を使用する事となった。

29 【結果】解凍赤血球 2 単位製剤 2 本を東京都赤十字
30 センターより緊急搬送し使用した。

31 【考察】患者の抗体は自然流産による免疫抗体の可
32 能性が高いと思われる。残念ながら患者の協力が得
33 られず家族歴や遺伝型を調べる事が出来なかった。
34 解凍赤血球は解凍後 12 時間以内に使用しなければ
35 ならないが、関係部署と連携し円滑に輸血を行なう
36 ことが出来た。今回の輸血を経験したことで稀血時
37 の対応など理解を深める事ができ、緊急時の稀血患
38 者の適合血が見つからない場合の臨床への報告体制
39 の必要性を改めて痛感した。 0438-36-1071